

キバナキバナガミズギワゴミムシ *Bembidion aestuarii* S.Uéno et Habu

【選定理由】

生息地である河川河口部の自然海岸の消失、汚染により、生息基盤が脅かされている。

【形態】

体長 4.5mm 内外。頭部、前胸は黒色で、緑色の金属光沢が強い。上翅は広く黄色。よく似た種にキバナガミズギワゴミムシがあるが、上翅が広く黄色となることと、後脚転節が長く、腿節の 2/3 近くまで達することで区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋市、西尾市、愛西市、弥富市から記録がある。

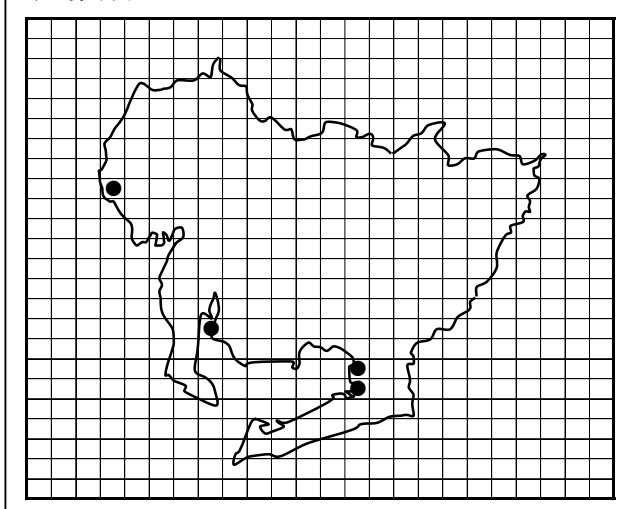
【国内の分布】

千葉県以西の本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本の特産種である。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

河口部の砂地に生息する。海棲の種で、満潮時は、完全に水没した砂中などに潜み、干潮時に露出した潮間帯で活動する。近縁のキバナガミズギワゴミムシが混生する河川では、より河口部に偏って多く見られる傾向がある。

【現在の生息状況／減少の要因】

豊橋市の豊川、梅田川、西尾市の矢作川、弥富市（旧弥富町）の鍋田川、愛西市（旧立田村）の木曾川から確認されている。生息地での個体数は決して少なくないが、生息範囲はいずれも広くななく、また限られている。減少の要因としては、生息域である河川河口部の汚れ、堤防構築などによる生息場所の消失、河口部の堰などによる生息域の塩分濃度の変化などが考えられる。

【保全上の留意点】

県内で現在生息している地域は、まだ決して少なくないので、現在の環境を維持するとともに、上流部も含めた河川の浄化、河口付近の環境回復に努力すれば、存続は可能と思われる。しかし、生息地が特殊な環境であることから、河口堰などの建設、潮間帯の汚染などによる影響に敏感であり、急速に衰退に向かう可能性も少なくない。

【関連文献】

- 森田誠司・白井勝己・蟹江 昇・長谷川道明, 1996. 愛知県におけるキバナガミズギワゴミムシ類の採集記録. 豊橋市自然史博研報, (6): 27-30.
岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)